

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 24 No12

281号

平成28年12月10日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

いのちのつながり

院長

今年も11月24日(木)、小松島小学校4年生に「命の大切さ」を伝える性教育の授業を行いました。2007年の保健授業「育ちゆくわたしとからだ」を担当とのTeam teachingが始まりで、翌2008年には親子PTA行事「親子で学ぼう『いのちのつながり』」となり、その後は毎年開催されました。校長の「PTA行事は、毎年その年度ごとに内容が違います。川村先生の「いのち」「性教育」は、4学年児童の学習にとっても有効であり、毎年必ず聞かせたい講話です。…」の判断によって、2013年からGest teacherによる授業になり3回目、活動を開始してから10年目となりました。



5校時目は保護者同席での授業『命の大切さを伝える「赤ちゃんはどこからくるの」』は、例年通りに子どもたちとの掛け合いと渦巻く笑いの中で進めることができました。例年保護者は20人前後ですが、役員さんの熱い思いと頑張りのおかげで48人、父親も2人参加しました。男性の参加は嬉しいことでしたが、いつもと違う微妙な緊張感がありました。結局児童・教職員合わせて145人の参加でした。「赤ちゃんはどこからくるの」の詳細はCLINIC NEWS(2012年10月号)ブログ「こどもクリニック四方山話」をご覧ください。近日中に授業の様をYoutubeで公開したいと思っています。

6校時の健康講話「いのちのつながり」は、保護者のみを対象としたPTA行事となりました。せっかく授業に格上げされたのにPTA行事に逆戻りと訝しく思いましたが、本当の理由は別にありました。PTA役員さんによると、“前任者から今年の模様を聞いて、少しでも多くの保護者に参加してもらえるようにあえてPTA行事としました”と、評価されているという何とも嬉しい理由でした。講話では、昨年へ続き“先生の生い立ち”から始まり、誕生の頃の写真、研修医時代のパンチパーマ姿は、大きな笑いが渦巻く始まりとなりました。続いて、質問の一つ一つを紹介し、解説する流れとなりました。そして、クライマックス

は「悲しい出来事」として、日齢4新生児死亡搬入のケースを紹介しました。開業医に死亡新生児が搬入されることは、極めてまれです。その赤ちゃんの生まれてきた証を明らかにするために、あえて悲しい事件を通して「人の命とは」、「命の大切さとは」を考える材料にしています。「悲しい出来事」の詳細はCLINIC NEWS(2013年11月号)をご覧ください。

熱心な役員さんが力を注いでくれ、感想が見やすく整理され、役員さんの熱意がひしひしと伝わってくるだけでなく、その感想自体素晴らしいものばかりです。「お腹にいる時の話などをすると照れてしまい、話をそらしていましたが、今日の先生の講義を聞いて親子で色々とお話をしたいと思うようになりました。」「命をつなげるということが、親になり未来へつなげる。正しい知識を親子で話し伝えることで、赤ちゃんだけでなく我が子や相手を守ることになるのだと感じました。」「日々怒ってばかりで、十年前に出産し、大切に大事に育ててきていたことを忘れていたように思いました。今日の講義はいろいろ気づけて思い出することができてよい一日でした。」「最近ニュースでは親が子供を殺害することが多く伝えられています。今日のようなお話が聞けていのちの大切さを考える機会があれば、このような事件も減っていくのではと感じました。」「児童養護施設の職員なのですが、私はまだ未婚で出産をしたことがないです。症例をみると胸が苦しくなりました。施設にいる子供の親は子供を大切に想ってる方もいれば様々なように見受けられます。子供を大切に想う心が子供に伝わり、子供も自分がお父さんお母さんになった時に子供にできると思います。また、事例として見させていただいて、育てられないのなら避妊するなり、性行為を考えれば良いと思います。無知すぎるのもある意味罪だと改めて感じさせられた講義でした。年頃の子供達が沢山いるので伝えていきたいと思えます。報告書はクリニックF.Bページに掲載予定ですので、ぜひ全文をお読みください。自分の取り組みが役立っていることを証明してくれる大事な外部評価でした。

授業は性教育といいながら、「命の大切さ」がテーマです。「いのちのつながり」「命の大切さ」は、自分自身だけでなく、他人を大切にすることにもつながります。親子揃って聞くことは、触れにくい話題が食卓に上り、親と子のコミュニケーションを通して様々なことを考えていくきっかけになるはずですが、保護者の感想を読む限り、授業の意義や目的はしっかり伝わっているようでした。このような小学生に対する活動が広がり、虐待やいじめ防止につながることを願って止みません。



12月のお知らせ

- 東北大学医学部学生実習
2日(金)
ご迷惑をおかけするかもしれませんが、よろしくお祈りします。
- 栄養育児相談
7、21日(水) 13:30
栄養士担当 参加無料



『がんばろう！熊本 がんばろう！日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場



先月は4通のメールをいただきました。まずは泉区の熊谷さんから入院後の報告メールです。「メールにて失礼致します。熊谷〇〇の母です。今日は大変お世話になりました。検査等もそろそろありまして、4時半頃によく病室で休むことができてきました。こちらに来てからもずっと40度の熱、ひどい頭痛でしたが、しんどいながらも泣き泣き頑張って検査を終え、結局副鼻腔炎からの熱、咳、頭痛だろうという診断をいただきました。今は点滴で水分と抗生剤を投与してもらい、眠っています。初めての入院となり、私も不登校っぽいです。治療を始めて、少しホッとしています。今日、先生のところに行って本当に良かったです。見過ごしていたら…と考えるとゾッとします。丁寧に診て下さり、ありがとうございました。取り急ぎ、ご報告とお礼まで。本当にありがとうございました」。入院後で気持ちも揺れ動いている中でのメール。医師に報告する必要があるわけでもなのに…。こんなメールは本当に嬉しいものです。

続いては運動器検診で脊柱側湾症が見つかった母親から、もっと早く気がつかなかったのか。整形外科での受診待ちなど、後悔とともに不安・心配を切々に綴ったメールです。「川村先生、こんにちは(^-^*)/いつもお世話になっております〇〇の母です。川村先生に報告です。五年生の〇〇ですが、脊柱側湾症を発症してしまいました。進行防止のための装具を着用しはじめています。ここまでいろいろなことや思いがありました。長文になりますが、先生に読んでいただけたら心が救われます。(略)」そして気付いてからコルセット装着までの経緯や思いが綴られ、最後に「側湾症と言うことはすぐにはわからなかったけど、そういう検査が今年から取り入れられたというのは良かったことだなと。これからは、少しでも進行しないようにと祈りながら、〇〇の手助けをしていきたいと思えます。」と結ばれていました。3,000字にもなる長文なので一部のみ掲載しました。後日ブログ「こどもクリニック四方山話」に掲載予定です。

そのメールを受けて、次のように返事しました。「メールありがとう。勘違いして、今日来ると思っていました。脊柱側湾症の件ですが、こう考えるべきだと思います。通常は家人が見つかることができるのは、かなり進行してからになります。時々進行してから見つかるケースがあるので、学校によっては脊柱側湾検診があります。ちなみに仙台市では5年生時に行きます。つまり発見しにくいこともあり、運動器検診に取り入れられたわけです。つまり、今回の検診で見つかったよかったと考えるべきでしょう。運動器検診をしていなければ、もっとひどくなってから見つかることになるのです。側湾症の知識がない親御さんが、見つけられないのは当たり前です。それを後悔しても仕方ないし、後悔する必要はありません。今回見つかったのはラッキーだったと考え、側湾に前向きに対応しましょう。きっと良くなると信じることが、今が一番大切ですよ。明日もしっかり聞いてあげるの、気持ちを楽しみましょう。」

そして母親からの返信。「川村先生、おはようございます。先日はお忙しい中、長文のメールを読んでくださりありがとうございました。そしてお返事もありがとうございました。そつですね。なかなか発見しにくい病気を、今回わかったことは良かったことですね。学校の検診がこのタイミングであったことが幸いして、発見できて良かったです。きっと検診がなければ、もっと進行して、明らかにおかしい！ってなるまでそのままだったと思います。先生の言う通りに、ラッキーなことと思うことにします。「見つけられないのは当たり前」と言う言葉に心がスッと軽くなりました。これからは、側湾が進行しないように、少しでも良くなる事を信じて過ごしていきたいと思えます。〇〇ですが、学校では、自分一人では装着できないコルセットも、担任の先生、養護の先生に協力していただき、体育の時の取り外しや装着を難無くこなしているようです。本当にありがたいことです。そして、悲観的になることもなく、初めは嫌がっていたコルセットにも前向きに取り組んでいるので、親としては本当に助かります。昨日、先生のクリニックにインフルエンザの問診票を取りにお伺いしたときに、帰長さんがわざわざお声をかけてくださって、私の不登校に対してニコニコ笑顔で「大丈夫よ～」と励ましてくださいました。その笑顔と一言に、何を後悔していたんだろうか～？と思えるぐらいの元気をいただくことができました。本当に嬉しかったです。いつも川村先生や看護師さん、スタッフの皆さんの笑顔に救われます。本当にありがとうございます。気持ちも新たに、今日、お昼過ぎに子供達のインフルエンザの予防接種にお伺いしますね。よろしく願います」。このような経験を伝えてくれることは、きっとみなさんにも役立ちます。ありがとう！！

お母さんクラブ』クリスマス会

12月10日(木) 14:30 福沢市民センター
クリニック・薬局の出し物。ゆうき君のお母さんのワンマンショー。そしてサンタさんとトナカイ君からのプレゼントもあります。お母さんも童心に帰って楽しんでください。

年末年始休暇のお知らせ

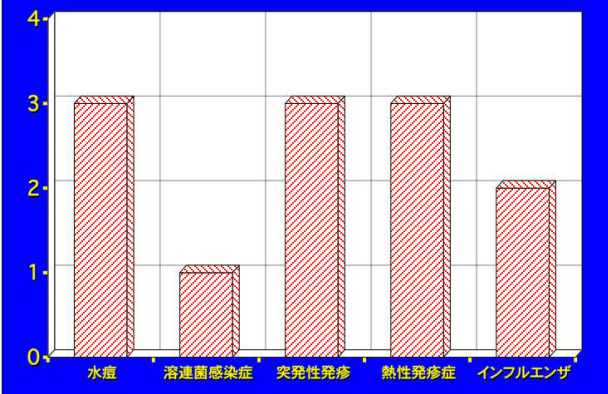
12月30日(金)～1月3日(火) は休診になります。皆さんには大変ご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。

子ども医学講座
第523回 市民医学講座
感染症を防ごう
「微生物のことを知り、手洗いの仕方を学ぼう」
一貴生野のこを、手洗いの仕方を学ぼう～
講者 賀来 満夫 先生
平成28年 12/17(土) 14:00～
仙台市急患センター

子ども医学講座のご案内
「感染症を防ごう～微生物のことを知り、手洗いの仕方を学ぼう～」
講師：東北大学病院総合感染症科 賀来 満夫教授 教室の皆さん
司会：川村和久 (かわむらこどもクリニック医長)
日時：平成28年12月17日(土) 14:00～
会場：仙台市急患センター 仙台市医師会館 2階ホール
対象：小・中学生 (事前予約不要)
参加費：無 料



11月の感染症の集計



グラフでは特別な病気は流行していないように見えます。ここには示していませんが、感染性胃腸炎が全国的に大流行で、例年の3倍程度の患者さんがいました。感染症情報に関しては、随時 Facebook で提供していますので、合わせてみてください。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は、570人を越えるお母さんが登録。下のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。
最新情報はFBを見てください。
Mail News が届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews Facebook

編集後記

もう師走になってしまいました。自分でも言うのもへんですが、本当に忙しい一年でした。様々な仕事を受け持ち、週に4～5日は診療以外のイベントがあり、月に2回は出張です。そんな中で無事診療を続けられるのも、皆さんの理解と協力のおかげです。そしていつも「読者の広場」に寄せられるあたたかく心のこもったメールのおかげです。一年間ありがとうございました。



麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！